

# 日本語教育基本語彙に関する一調査

張麗敏

## 一、はじめに

昭和57年3月、国立国語研究所から「日本語教育指導参考書9」として「日本語教育基本語彙七種比較対照表」が発表された。その中にある七種の比較資料は次の通りである。

岡本禹一(一九四四)「日本語基本語彙」(国際文化振興会)

加藤彰彦(一九六三~四)「日本語教育における基礎学習語」(『日本語教育』第2号及び第3、4合併号、日本語教育学会)

玉村文郎(一九七〇~七八) Practical Japanese-English Dictionary (海外技術者研修協会)

権島忠夫、吉田彌壽夫(一九七一)「留学生教育のための基本語彙表」(『日本語、日本文化』第2号、大阪外国大学研究留学生別科)

文化庁国語課(一九七一~七五)『外国人のための基本語用例辞典』

J.V. Neustupny(一九七七) A classified List of Basic Japanese Vocabulary (Monash University, Department of Japanese, Melbourne)

国立国語研究所日本語教育センター(一九七八)『日本語教育基

本語彙第一次集計資料—二千語』(第一研究室内部資料)

これを読んで、台湾にも蔡茂豊先生が中国人学習者のための「日本語基本語彙二千字」を選定してあるのに気がついた。

基本語彙の選定は個人の主観や対象者によってそのずれが出てくる。どの学者も賛成する語彙表を作ることとは不可能ほど難しいが、数多くの基本語彙表を対照して、その共通語彙を取り出し、できるだけのもとも基本的で、一般的で、役に立つ基本語彙何百字、あるいは何千字を求めることは必要ではないかと思われる。そういう関心を持つが故に、このレポートを書くことにしたのである。

## 二、調査報告

### 二・一 一致度

「日本語教育基本語彙七種比較対照表」に一致度を計算してある。この一致度は国語研項目(一九七八)を基準として比較してできたのである。計算の方式は次のようである。

$$\text{一致度} (0 < x < 1.0) = \frac{(A \cap B)^2}{A \times B \times T}$$

AT、BTは比較の対象となる語彙表のそれぞれの語彙数(比較対象語数)を、A∩Bは語彙表AとBに共通に含まれる語数(一致語数)

表一

code	語 彙 表	収 録 語 彙 数	比 較 対 象 語 数	一致語数	一 致 度
1	岡本(1944)	2012	2012	1342	0.455
2	加藤(1963,4)	1393	1379	1098	0.444
3	玉村(1978)	3209	3205	1652	0.433
4	Neus.(1977)	1796	1762	1167	0.393
5	文化庁(1975)	3691	3638	1566	0.343
6	日語基本語彙二千字	1980	1947	1124	0.330
7	日本語読本(I)	1318	1306	719	0.201
8	樺島・吉田(1971)	1803	1606	583	0.108
	国語研(1978)	約2000	1968		

を示す。また、同じ計算方式によって、蔡茂豊先生の選定された「日語基本語彙二千字」に一致度も計算した。ついでに蔡茂豊著「日本語読本I」は教科書で、別に基本語彙何千字とかいう目的で編さんされたのではないが、ここに参考まで掲げておく。あわせて比較すると、一致度の高低順が表一のようになる。

表2

	共通語彙数	累 積
七種共通語彙	278 (4.6%)	278 (4.6%)
六種共通語彙	551 (9.1%)	829 (13.7%)
五種共通語彙	428 (7.0%)	1257 (20.7%)
四種共通語彙	474 (7.8%)	1731 (28.5%)
三種共通語彙	538 (8.8%)	2269 (37.3%)
二種共通語彙	866 (14.3%)	3135 (51.6%)
一種のみ	2938 (48.4%)	6,073 (100%)
総 計	6,073 (100%)	

この表から見ると、国語研の語彙を基準として見た場合、岡本が最もこれに近く、樺田、吉田が最もこれから離れるということになる。そうすると、蔡先生の選定された語彙も一致度の低いランクに入る。

二・二 共通語彙数

次に共通語彙数を参考にして見てみよう。「日本語教育基本語彙七種比較対照表」のはしがきに、各語彙表間での語彙の共通度を解明するため、共通語彙数を表2のように掲げてある。

表 3

	共通語彙数	果 積	基 本 語 彙 二 千 字		日 本 語 読 本 I	
			共通語彙数	果 積	共通語彙数	果 積
七種共通語彙	278 ( 4.6 % )	278 ( 4.6 % )	233 ( 12.0 % )	233 ( 12.0 % )	178 ( 13.6 % )	178 ( 13.6 % )
六種共通語彙	551 ( 9.1 % )	829 ( 13.7 % )	400 ( 20.5 % )	633 ( 32.5 % )	272 ( 20.8 % )	450 ( 34.4 % )
五種共通語彙	428 ( 7.0 % )	1257 ( 20.7 % )	239 ( 12.3 % )	872 ( 44.8 % )	108 ( 8.3 % )	558 ( 42.7 % )
四種共通語彙	474 ( 7.8 % )	1731 ( 28.5 % )	200 ( 10.3 % )	1072 ( 55.1 % )	126 ( 9.6 % )	684 ( 52.4 % )
三種共通語彙	538 ( 8.8 % )	2269 ( 37.3 % )	167 ( 8.6 % )	1239 ( 63.7 % )	105 ( 8.0 % )	789 ( 60.4 % )
二種共通語彙	866 ( 14.3 % )	3135 ( 51.6 % )	175 ( 9.0 % )	1414 ( 72.7 % )	92 ( 7.0 % )	881 ( 67.4 % )
一種共通語彙	2938 ( 48.4 % )	6073 ( 100 % )	211 ( 10.8 % )	1625 ( 83.5 % )	128 ( 9.8 % )	1009 ( 77.3 % )
			322 ( 16.5 % )	1947 ( 100 % )	297 ( 22.7 % )	1306 ( 100 % )

表 4

		七種共通語 (278 語)		六種共通語 (551 語)		五種共通語 (428 語)		四種共通語 (474 語)		三種共通語 (538 語)	
		果 積		果 積		果 積		果 積		果 積	
1.1	抽象的關係	60	79	139	79	218	92	310	113	423	
1.1.2	人間活動の主体	9	54	63	23	86	37	123	50	173	
1.3	人間活動—精神及び行為	24	83	107	85	192	97	289	96	385	
1.4	生産物及び用具物品	17	67	84	46	130	40	170	63	233	
1.5	自然物及び自然現象	25	63	88	39	127	35	162	40	202	
	小 計	135	40.5 %	346	56.3 %	481	50.7 %	272	58.1 %	753	53.2 %
2.1	抽象的關係	57	63	120	56	176	51	226	38	264	
2.3	人間活動—精神及び行為	47	68	115	51	166	30	196	42	238	
2.5	自然現象	8	13	21	16	37	7	44	12	56	
	小 計	112	33.6 %	256	27.0 %	379	26.8 %	467	23.1 %	559	23.1 %
3.1	抽象的關係	59	53	112	37	149	42	191	40	231	
3.3	人間活動—精神及び行為	8	37	45	22	67	20	87	15	102	
3.5	自然現象	11	20	31	4	35	3	38	9	47	
	小 計	78	23.4 %	188	19.8 %	251	17.7 %	316	12.1 %	380	15.7 %
4.1	抽象的關係	4	3	7	5	12	8	20	3	23	
4.3	人間活動—精神及び行為	4	12	16	5	21	10	31	7	38	
4.5	自然現象	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小 計	8	2.4 %	23	2.4 %	33	2.3 %	51	1.9 %	61	2.5 %
	合 計	333	615	948	468	1416	472	1888	528	2416	
	実 有 語 数	278	551	829	428	1257	474	1731	538	2269	

表2に示されるように三種共通語彙までの累積語数は<sup>2269</sup>語である。

この<sup>2269</sup>語は誰かの主観によって選定されたものではない。たまたま七種の基本語彙表に基本語だと認めて入れたものにすぎないが、単なる国語研の語彙表より信頼度が高いとは言えるだろう。次に「日語基本語彙二千字」と「日本語読本Ⅰ」はこの<sup>2269</sup>との共通度がどの程度のものであるかを調べてみよう。

ご覧の通りに七種共通語彙<sup>278</sup>語が「日語基本語彙二千字」に<sup>233</sup>語、「日本語読本Ⅰ」に<sup>178</sup>語と収録される。三種共通語彙までの<sup>2269</sup>語が「日語基本語彙二千字」に収録されたのは<sup>1239</sup>語あるから、その一致度を算出すると。

$$\frac{(A \cap B)^2}{A \times B} = \frac{(1239)^2}{2269 \times 1947} = \frac{1535121}{4417743} = 0.347$$

なお、信頼度を考慮に入れた上、比較対象語数と最も近いのを求めて、五種共通語彙までの<sup>1257</sup>語と「日本語読本Ⅰ」と比較して、その一致度を算出すると、

$$\frac{(A \cap B)^2}{A \times B} = \frac{(558)^2}{1257 \times 1306} = \frac{311364}{1641642} = 0.190$$

のようになる。

### 二・三 意味分類

次は「分類語彙表」のコードに従って、基本語彙を意味分類から考えることにしたい。だが、二つ以上のコードに属する単語もあるので、そういう場合、どのコードにも一語加えるように計算する。

又、コード決定が難しくて省略された語もあるので、次の表の語彙数は前表と一致してゐなく。

同じ「分類語彙表」に基づいて、「基本語彙二千字」と「日本語読本Ⅰ」の意味分類（品詞分布）を調査した結果、表五のようにな

る。

表五

	基本語彙二千字		日本語読本Ⅰ	
体の類	1255	63.93 %	970	73.60 %
用の類	479	24.40 %	196	14.87 %
相の類	206	10.49 %	129	9.79 %
その他	23	1.17 %	23	1.75 %
計	1963	100 %	1318	100 %

### 三、おわりに

こんどの調査で基本語彙の問題からいくつかの点が見られる。第一各学者や研究機関に選定された基本語彙の一致度の低さである。50%にも達しない。表一のように大部分の学者に賛成された基本語彙は278しかないけれど、ただ一票しか取らなかった語は三千ほども及んだ。第二、三種以上の共通語彙の品詞分布（意味分類）にも注目し値いするものがある。表四、表五を対照してみると、「基本語彙二千字」にも「日本語読本Ⅰ」にも名詞が一般より多く収録されていることがわかる。ところで、意味分類や品詞を中心として共通

度を考察したらどうなるのか。精密に計算したわけではないが、表四を詳しく読んでいただければ推測できようと思う。動詞の共通度が一番高いのは人間としての動作や作用などにあまり差がないからだと考えよう。これに反して、名詞の使用は職業や年齢によってかなり違ってくる。それが故に、どれが基本語彙かは学者間の意見がさまざまに分かれているのが当然であろう。その上、基礎語いかなそれとも基本語いかなという問題にも原因があると思われる。

七種の基本語い表を対照して取り出した二千ぐらいの単語を「現代雑誌九十種の用字用語(一)」に使用頻度の上位になる二千語と比較してみたいとは思ったが、一人で扱う大な語いを調査し処理するのはそう簡単ではないので、こんどの宿題にさせていただきます。

語い教育がこれからだんだん重要視されるにちがいないが、このレポートは私のこの方面の勉強の第一歩である。

#### 四、参考書籍

1. 日本語教育基本語い七種比較対照表 国立国語研究所 昭和57年3月
2. 日語基本語彙二千字 蔡茂豊 文化圖書公司 一九七二年二月
3. 日本語読本I 蔡茂豊 東吳大学日本文化研究所 一九八一年三月
4. 国語語彙論 田中章夫 明治書院 昭和53年
5. 分類語彙表 国立国語研究所

#### 五、附 録

##### 四・一 七種共通語彙(278字)

一、あいだ<sup>1</sup>(間)

○ △

二、あがる<sup>2</sup>(上、揚)

○ △

三、あかるい<sup>3</sup>(明)

○ △

四、あげる<sup>2</sup>(上、揚、挙)

○ △

五、あさい<sup>3</sup>(浅)

○ △

六、あたらしい<sup>3</sup>(新)

○ △

七、あたる<sup>2</sup>(当)

○ △

八、あつまる<sup>2</sup>(集)

○ △

九、あと<sup>1</sup>(後)

○ △

一〇、ある<sup>2</sup>(有、在)

○ △

一一、ある<sup>3</sup>(或)

○ △

一二、いい<sup>3</sup>(良)

○ △

一三、いう<sup>2</sup>(言)

○ △

一四、いきる<sup>2</sup>(生)

○ △

一五、いく<sup>2</sup>(行)

○ △

一六、いくつ<sup>1</sup>(幾)

○ △

一七、いくら<sup>1</sup>(幾)

○ △

一八、いし<sup>1</sup>(石)

○ △

一九、いじょう<sup>1</sup>(以上)

○ △

二〇、いつ<sup>1</sup>(何時)

○ △

二一、いと(糸)<sup>1</sup>

○ △

二二、いま(今)<sup>1</sup>

○ △

二三、いみ<sup>1</sup>(意味)

○ △

二四、いる<sup>2</sup>(要)

○ △

二五、いれる<sup>2</sup>(入)

○ △

二六、いろ<sup>1</sup>(色)

○ △

二七、いろいろ<sup>3</sup>(色々)

○ △



- 八〇、きめる(決)<sup>2</sup>  
 八一、きようそう(競争)<sup>1</sup>  
 八二、ぎんこう(銀行)<sup>1</sup>  
 八三、くうき(空気)<sup>1</sup>  
 八四、くに(国)<sup>1</sup>  
 八五、くらい(暗)<sup>3</sup>  
 八六、くらべる(比)<sup>2</sup>  
 八七、くる(来)<sup>2</sup>  
 八八、くるま(車)<sup>1</sup>  
 八九、けんきゆう(研究)<sup>1</sup>  
 九〇、こう(指)<sup>3</sup>  
 九一、ここ(指)<sup>1</sup>  
 九二、ところ(心)<sup>1</sup>  
 九三、こと(事)<sup>1</sup>  
 九四、ことば(言葉)<sup>1</sup>  
 九五、この(指)<sup>3</sup>  
 九六、こめ(米)<sup>1</sup>  
 九七、これ(指)<sup>1</sup>  
 九八、ころ(頃)<sup>1</sup>  
 九九、さがる(下)<sup>2</sup>  
 一〇〇、さき(先)<sup>1</sup>  
 一〇一、しかし(接)<sup>4</sup>  
 一〇二、じかん(時間)<sup>1</sup>  
 一〇三、しごと(仕事)<sup>1</sup>  
 一〇四、しぜん(自然)<sup>1</sup>  
 一〇五、した(下)<sup>1</sup>

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
 △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △

- 一〇六、じどうしゃ(自動車)<sup>1</sup>  
 一〇七、しぬ(死)<sup>2</sup>  
 一〇八、しばらく(暫)<sup>3</sup>  
 一〇九、じぶん(自分)<sup>1</sup>  
 一一〇、しゃしん(写真)<sup>1</sup>  
 一一一、じゆう(自由)<sup>1</sup>  
 一二二、じゆうぶん(十分)<sup>3</sup>  
 一二三、しゅっぱつ(出発)<sup>1</sup>  
 一二四、しゅるい(種類)<sup>1</sup>  
 一二五、しょくぶつ(植物)<sup>1</sup>  
 一二六、しらべる(調)<sup>2</sup>  
 一二七、しる(知)<sup>2</sup>  
 一二八、すう(吸)<sup>2</sup>  
 一二九、すくない(少)<sup>3</sup>  
 一二〇、すこし(少)<sup>3</sup>  
 一二一、すすむ(進)<sup>2</sup>  
 一二二、すむ(住)<sup>2</sup>  
 一二三、せいかつ(生活)<sup>1</sup>  
 一二四、せかい(世界)<sup>1</sup>  
 一二五、せつめい(説明)<sup>1</sup>  
 一二六、ぜんたい(全体)<sup>1</sup>  
 一二七、そう(副感)<sup>3 4</sup>  
 一二八、そうして/そして(接)<sup>4</sup>  
 一二九、そこ(指)<sup>1</sup>  
 一三〇、そと(外)<sup>1</sup>  
 一三一、その<sup>3</sup>

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
 △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △

一三二、それ<sup>14</sup> (指感)  
 一三三、たいせつ<sup>3</sup> (大切)  
 一三四、だいたい<sup>13</sup> (大体)  
 一三五、たいへん<sup>3</sup> (大変)  
 一三六、たかい<sup>3</sup> (高)  
 一三七、たくさん<sup>3</sup> (沢山)  
 一三八、だす<sup>2</sup> (出)  
 一三九、たつ<sup>2</sup> (立、建)  
 一四〇、たてる<sup>2</sup> (立、建)  
 一四一、たのしみ<sup>2</sup> (楽)  
 一四二、ため<sup>1</sup> (為)  
 一四三、ちいさい<sup>3</sup> (小)  
 一四四、ちかい<sup>3</sup> (近)  
 一四五、ちがう<sup>2</sup> (違)  
 一四六、ちから<sup>1</sup> (力)  
 一四七、ちや<sup>1</sup> (茶)  
 一四八、ちゅうい<sup>1</sup> (注意)  
 一四九、ちようど<sup>3</sup> (丁度)  
 一五〇、つかう<sup>3</sup> (使)  
 一五一、つぎ<sup>13</sup> (次)  
 一五二、つく<sup>2</sup> (付、着、就)  
 一五三、つくえ<sup>1</sup> (机)  
 一五四、つくる<sup>2</sup> (作)  
 一五五、つける<sup>2</sup> (付、着)  
 一五六、つたえる<sup>2</sup> (伝)  
 一五七、つづく<sup>2</sup> (続)

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
 △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △

一五八、つとめる<sup>2</sup> (勤、努)  
 一五九、つまり<sup>4</sup> (詰)  
 一六〇、つめたい<sup>3</sup> (冷)  
 一六一、つよい<sup>3</sup> (強)  
 一六二、て<sup>1</sup> (手)  
 一六三、できる<sup>2</sup> (出来)  
 一六四、てつ<sup>1</sup> (鉄)  
 一六五、でる<sup>2</sup> (出)  
 一六六、てん<sup>1</sup> (点)  
 一六七、でんき<sup>1</sup> (電気)  
 一六八、でんしゃ<sup>1</sup> (電車)  
 一六九、どう<sup>3</sup> (副)  
 一七〇、どうぶつ<sup>1</sup> (動物)  
 一七一、とおい<sup>3</sup> (遠)  
 一七二、とおる<sup>2</sup> (通)  
 一七三、とき<sup>1</sup> (時)  
 一七四、とくべつ<sup>3</sup> (特別)  
 一七五、どこ<sup>1</sup> (何処)  
 一七六、ところ<sup>1</sup> (所、処)  
 一七七、とち<sup>1</sup> (土地)  
 一七八、どの<sup>3</sup> (指)  
 一七九、とぶ<sup>2</sup> (飛、跳)  
 一八〇、とまる<sup>2</sup> (止、留)  
 一八一、とる<sup>2</sup> (取)  
 一八二、どれ<sup>14</sup> (指感)  
 一八三、なか<sup>1</sup> (中)

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
 △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △

一八四、ながい<sup>3</sup> (長)  
 一八五、ながれる<sup>2</sup> (流)  
 一八六、なくなる<sup>2</sup> (無)  
 一八七、なぜ<sup>1</sup> (爲何)  
 一八八、なつ<sup>1</sup> (夏)  
 一八九、なに<sup>1</sup> (何)  
 一九〇、なみ<sup>1</sup> (波)  
 一九一、ならう<sup>2</sup> (習)  
 一九二、ならぶ<sup>2</sup> (並)  
 一九三、にし<sup>1</sup> (西)  
 一九四、にる (似)<sup>2</sup>  
 一九五、ね<sup>1</sup> (根)  
 一九六、ねつ<sup>1</sup> (熱)  
 一九七、のうぎよう<sup>1</sup> (農業)  
 一九八、のこる<sup>2</sup> (残)  
 一九九、のびる<sup>2</sup> (延、伸)  
 二〇〇、は (葉)<sup>1</sup>  
 二〇一、は (齒)<sup>1</sup>  
 二〇二、はいる<sup>2</sup> (入)  
 二〇三、はこ<sup>1</sup> (箱)  
 二〇四、はじまる<sup>2</sup> (始)  
 二〇五、はじめる<sup>2</sup> (始)  
 二〇六、ばしょ<sup>1</sup> (場所)  
 二〇七、はたけ<sup>1</sup> (畑)  
 二〇八、はたらく<sup>2</sup> (働)  
 二〇九、はつきり<sup>3</sup>

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
 △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △

二二〇、はったつ<sup>1</sup> (発達)  
 二二一、はつめい<sup>1</sup> (発明)  
 二二二、はな (鼻)  
 二二三、はなす<sup>2</sup> (離)  
 二二四、はなれる<sup>2</sup> (離)  
 二二五、はらう<sup>2</sup> (払)  
 二二六、はんたい<sup>1</sup> (反対)  
 二二七、はんぶん<sup>1</sup> (半分)  
 二二八、ひがし<sup>1</sup> (東)  
 二二九、ひく (引)<sup>2</sup>  
 二三〇、ひくい<sup>3</sup> (低)  
 二三一、ひじよう (に)<sup>3</sup> (非常)  
 二二二、ひだり<sup>1</sup> (左)  
 二二三、ひつよう<sup>3</sup> (必要)  
 二二四、ひと<sup>1</sup> (人)  
 二二五、ひる<sup>1</sup> (昼)  
 二二六、ひろい<sup>3</sup> (広)  
 二二七、ふえる (殖)<sup>2</sup>  
 二二八、ふかい<sup>3</sup> (深)  
 二二九、ふつう<sup>3</sup> (普通)  
 二三〇、ふとい<sup>3</sup> (太)  
 二三一、ふね<sup>1</sup> (船、舟)  
 二三二、ふむ<sup>2</sup> (踏)  
 二三三、ふゆ<sup>1</sup> (冬)  
 二三四、ふるい<sup>3</sup> (古)  
 二三五、へいわ<sup>1</sup> (平和)

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
 △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △

